

平成 28 年度 第 4 回 稲城市海外姉妹都市検討市民会議
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 29 年 1 月 18 日（水） 午後 7 時から 8 時 25 分

【会 場】稲城市役所 6 階 601・602 会議室

【出席者】■委員；出席者 15 人

- ・ 稲城市自治会連合会（榎本 勝美氏）
- ・ 稲城市農業委員会（松本 一宏氏）
- ・ 稲城市商工会（奈良部 義彦氏）
- ・ 稲城市消防団（城所 達也氏）
- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
- ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
- ・ 教育関係及び稲城市三曲協会（栗井 洋子氏）
- ・ 稲城市芸術文化団体連合会（安東 道正氏）
- ・ 稲城市立学校 PTA 連合会（高橋 やよい氏）
- ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
- ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
- ・ 国際ソロプチミスト稲城（砂塚 有子氏）
- ・ NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ（角田 享氏）
- ・ 公募市民（原 忠男氏）
- ・ 公募市民（小山 良夫氏）

<欠席>東京稲城ロータリークラブ（川島 保之氏）、稲城青年会議所（石井 秀樹氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、企画政策課主事（新津 伸偉））

【開会】

委員 長：本日はお忙しい中、また、夜分遅くにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、平成 28 年度第 4 回稲城市海外姉妹都市検討市民会議を開催いたします。

事務局より、配布資料の確認をお願いします。

井田 係 長：まず、本日の委員皆様のご出席状況についてご報告いたします。現在、稲城青年会議所の石井委員、東京稲城ロータリークラブの川島委員がご到着されておられませんので、お電話にて確認のご連絡をしているところになります。

現状でご出席いただいている委員の方は 15 名になりますので、稲城市海外姉妹都市検討市民会議設置要綱の規定により、過半数の委員の出席がございますので、この会が成立していることをご報告いたします。

それでは、改めまして、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布して

おりますものは、8点になります。

①次第

②座席表

③資料1：平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 名簿

④資料2：平成28年度第3回海外姉妹都市検討市民会議（平成28年12月1日開催）

⑤資料3：平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議現地視察報告
（パワーポイント資料）

⑥資料4：平成28年度稲城市海外姉妹都市検討市民会議現地視察報告書

⑦資料5：フォスターシティ市への交流事業についての質問と回答

⑧資料6：海外姉妹都市の提言について（案）

こちらは、傍聴される方がいらした場合も同じ資料をお配りします。過不足等はございませんでしょうか。

【次第1】前回のまとめ

委員長：それでは、議題に入る前に、次第1『前回のまとめ』について、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：それでは次第1『前回のまとめ』について、私からご説明いたします。

〔資料2『平成28年度第3回海外姉妹都市検討市民会議（平成28年12月1日開催）』に基づき説明〕

委員長：ただ今、事務局より説明がありました。何かご質問のある方は挙手願います。

<挙手なし>

委員長：よろしいでしょうか。

<「はい」というご発言あり>

【議題1】現地視察報告について

委員長：続きまして、議題1『現地視察報告について』、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：それでは、パワーポイントにてご説明いたします。お手元の資料としましては、資料3『平成28年度稲城市海外姉妹都市検討市民会議現地視察報告（パワーポイント資料）』になります。

〔資料3『平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 現地視察報告（パワーポイント資料）』に基づきプレゼンテーション〕

また、資料4『平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 現地視察 報告書』につきましては、今のご報告をまとめた資料となります。

ここで、視察に行かれた委員の皆様から補足があれば、お話しいただきたいと思います。

副委員長：市民会議の代表として派遣をしていただきまして感謝申し上げます。大変良い経験ができました。報告書では2泊4日と書かれていますが、実際のところは現地2泊2日で、かなりハードなスケジュールでした。

向うの方は非常に友好的に迎えてくださりまして、2日間色々な方と握手をしながら、色々な場所を見て歩きました。私は68歳なのですが、この歳でも、他の市と交流することが非常にアクティブで、非常に活性化されて、楽しく感じました。これはやはり、若い方や子どもたちに、同じような経験をしてもらいたいと思いながら帰ってまいりました。2日間、本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

委員：この度、皆様方からご支援いただき、視察に参加させていただき、ありがとうございます。フォスターシティ市は距離は遠いのですが、「近い」という感じがしました。どういふことかと言うと、日本から太平洋を渡ればすぐサンフランシスコで、そこから30分でフォスターシティ市に行けるといふ、そういう意味からすると、すごい近場の都市だと感じました。

視察中は、色々な方とお会いしながら、すごく歓待していただきまして、恐縮するほどに皆さんに良くしていただいて、本当に感謝しております。

また、とても綺麗な街であり、ラグーンは海なのですが湖的なところもあり、美しい景観ですし、市街地に行きますと、商店の看板などがほとんどなく、すごく景観が良いと思いました。

アメリカは車社会と聞いていまして、その点に関しましては、大きな道路では片側4車線あり、その中を車が引切り無しに60キロから70キロで走っているのは印象的でした。

いずれにしても、とても良い都市でしたので、文化交流や学校を絡めた交流などが良いのではないかと思いますので、そういう中で少しずつ、余り焦らずに交流を広げていったら、お互い良い雰囲気の中で結べるのではないかと感じました。ありがとうございました。

委員：今回は、現地視察に行くチャンスをしていただきまして、本当にありがとうございました。私は、視察に行くに当たって、アメリカに駐在していた経験もあるので、軽い気持ちで稲城駅に行ったのですが、そこに市長が見送りに来てくださりました。少し私は驚きまして、永遠の赴任などなら分かるのですが、2日くらいの出張で見送りに来ていただくと、私も身が引き締まる思いになりまして、これは少し気合を入れていかないといけないと思い、稲城駅で市長の熱き気持ちが注入されました。

また、もう1つ驚かされたのは、サンフランシスコ空港に着きましたら、在サンフランシスコ日本国総領事館の副領事の方が空港に出迎えてくれたのです。我々、民間で海外に行った者から見ると、大使館とか領事館が空港に出迎えに来るといふのは、普通はありませんから。このような方が出てくるのは、事件に巻き込まれた時くらいです。このような領事館の出迎えを見まして、稲城市の行政としての1つのプロジェクト、これはすごいパワーだなと感じました。その後も、着いたときから帰りまで、領事館のフルアテンドで、

そこまでやってくれることに対して、非常に素晴らしいと思いました。

視察に関しては、私はサンフランシスコにいたことがあるので、フォスターシティ市の素晴らしい環境や、カリフォルニアのことなどについては、ある程度想定した通りでしたが、稲城市長の意気込みと、領事館の全面的バックアップについては本当に素晴らしいと思いました。

それともう1点、スティーブ岡本さんという方については、私は資料でしか拝見していませんでしたので、どのような方なのかと思っていましたが、結論から言いますと、とても素晴らしい方でした。市長と部長が視察に行かれてから2年経ち、その間、時計の針は止まってしまっていたので、向うがどういう状況なのかということ、また、リタイアされた方ということを知っていて、海外でリタイアと言うと、普通は完全にリタイアしてしまうので少し心配でしたが、実際にお会いすると、コミュニケーションに全く問題ありませんし、メールもやられます。実際に私も帰ってからすぐにお礼のメールを送ったのですが、すぐに返事が来るくらいで、この人は素晴らしい人だなと感じました。

ただし、この方は非常にシャイな方です。ですから、距離がありますから、コンタクトはこちらからして行き、どんどんコンタクトして行けば、どんどん返事は帰ってきます。これからどういう形でアプローチするかは分かりませんが、スティーブ岡本さんは素晴らしい元市議の方で、地元にもすごいネットワークを持っていますから、この方が引き続き窓口になって下さるといことなので、非常に心強いと思います。

メインのパイプがスティーブ岡本さん、それからサブのパイプが領事館と、この辺が揃っていますので、後はこちら側の声掛け次第で、どんどん話は詰まってきます。もちろん現地サイドでは、行政がまた違った仕組みになっていますから、これは色々あると思いますが、まずは、そういう素晴らしいパイプがあるということで、これを是非今後、絶やすことなく、活かして行けたら良いと思います。

少し余分なことですが、一言だけ言わせていただきたいと思います。スティーブ岡本さんは名刺を交換したから分かるのですが、肩書きでは一応、コンサルタントになっています。具体的にどのような仕事をされるかは分かりませんが、今回の視察を含めて、今までの稲城市との窓口的な役割については、全部、無報酬なのです。果たしてこれから交渉するのに、この方を、無報酬でお願いして行って良いのかどうかと思います。こちらからお願いするという事でやっていますが、領事館は国の仕事をやっていて、給料も出ているので良いのですが、リタイアされているスティーブ岡本さんは個人です。視察では、ご自宅に招いていただいて、フルコースの食事までごちそうになる訳で、それを手土産を1つ持って行って、「お世話になりました」では、これからもそれで良いのかという問題があります。今後もスティーブ岡本さんを窓口にしてやっていくのであれば、是非、考えていただきたいと思います。ご本人からは「何かして欲しい」とは、絶対言ってこないと思いますが、「これからこう言う形で、稲城市としてもある程度コンセンサスを得たので、今後ともよろしく願います。」ということで、「こういう条件でいかがでしょうか。」と提案できたら良いのではないのでしょうか。未来永劫、無報酬でやってもらうというのは、是非、やめていただきたい。これは、国の品位、市の品位の話になります。1つ例を申し上げますと、視察では通訳をお願いしました。アメリカ人と結婚して30年サンフランシスコに

住んでいる女性の通訳の方で、非常に英語が上手く、聞いていても誤訳はほとんどありませんでしたが、その方の2日間の通訳料を聞いたところ、約25万円だそうです。2日間で通訳に約25万円とるアメリカなのです。それ以上にスティーブ岡本さんはアテンドをしてくれています。ご自宅にも招いてくれています。私もメールを打ってます。情報ももらっています。これからも、そういうことがずっと続いていきますので、是非、行政としてか、この市民会議としてか分かりませんが、何らかの形で金額も入れて、提案した方が良いと思います。向うがいらないと言えばそれはそれで良いだけの話です。スティーブ岡本さんは、このプロジェクトの命綱のような方ですから、ここはしっかりやっていただければと思います。以上でございます。ありがとうございました。

柴田課長：スティーブ岡本さんについて感じたことを、私からも少しお話をさせていただきます。スティーブ岡本さんには丸2日間視察にご同行いただき、色々な場所にご案内をいただいたのですが、どこの場所に行っても、通りかかった市民の方1人か2人くらい、必ず声を掛けてくる人がいました。もう現職の市議会議員ではないのですが、やはり人柄と言いますか、今までスティーブ岡本さんのやられてきたことの1つの証左だと感じさせてくれる、非常に素晴らし方だと思いました。

それでは、最後に、資料5『フォスターシティ市への交流事業についての質問と回答』をご説明させていただきます。こちらは、12月6日付の文書で、皆様にご照会させていただきました「交流事業等についてフォスターシティ市へ確認したい事項」につきまして、フォスターシティ市から回答をいただいたものになります。

皆様からは、非常にたくさんのご質問をいただきまして、誠にありがとうございました。いただきました質問は、事務局の方で類似したものなどは集約させていただき、フォスターシティ市に投げかけを行いました。回答をいただけたものの一覧が資料5になります。

〔資料5『フォスターシティ市への交流事業についての質問と回答』に基づき説明〕

報告は以上となります。

委員長：説明が終わりました。それでは、現地視察の報告を受けまして、ご質問等ある方は、挙手をお願いいたします。

委員：視察の際に稲城市をPRしたという映像資料を、お貸しいただいたり、見せていただくことはできるのでしょうか。

柴田課長：できます。委員には後ほどご提供いたします。

委員：現地でプレゼンテーションしたのは、スティーブ岡本さん以外にもおられる場所でやったのでしょうか。

柴田課長：プレゼンテーションをやったのは、スティーブ岡本さんのお宅だけでした。プレゼンテーションはチャンスがあればどこでもやろうと、機材等も持ち歩いていましたが、今回の視察では、色々な方たちから時間を割いていただいて、短時間で移動をしながら、意見交換をさせていただいた形になっていますので、なかなかプレゼンテーションをする機会はありませんでした。ただし、時間がいただけなかった所には、プレゼンテーションのデータの入ったCDをたくさん持って行っておりましたので、そちらをお渡しするのと、「こう

いう中身が入っています」という紙ベースで印刷した資料をお渡しし、「是非、これを見て稲城を知って下さい」とお話ししてきました。たくさんの稲城の写真を付けていますので、順番に見ていただくだけでも、稲城の風景・雰囲気が見て分かっていただけだと思います。

委員：今の質問の主旨としては、現地の方が稲城市に対してどういう反応をしたのか、どういう関心を持たれたのかということが知りたいと思ったことがあります。

柴田課長：実際には、意見交換で行った先々では、口頭による稲城市の紹介をしまして、例えば商工会長とのお話の中では、「フォスターシティ市が3万人くらいの人口で、稲城市の2万人くらいの人口だった頃から8万9千人になる過程がどのようなものでしたか」というご興味ですとか、「1971年に市制施行されていて、年齢が同じですね」という話などがありました。

また、お会いする方がスポーツ分野の方でしたら、稲城市のスポーツの話をするなど、それぞれの分野で興味のあることをご質問をいただき、お話をしたような形になります。

委員長：他にございますでしょうか。

委員：議題2の提言のところにも関わると思うのですが、次の課題として、交流をするために稲城としては何らかの組織を作っていこうと話してきましたが、先方も何らかの組織作りをするものと思います。今後に向けて、先方はどういうイメージでいるのか、視察の中で、もしそこまで踏み込んだお話ができたのであれば、お教えいただきたいと思います。これは今後の課題かとは思いますが。

委員：今回の視察は交渉で行ったのではなく、基本的に国とか、施設とか、どういうことをやっているかということなどを視察して来るものでした。もちろん色々な意見交換はしましたが、向うのトップと会って、いきなり「姉妹都市を結びましょう」というようなものではありませんでした。

私の考えでは、稲城市長がやるというところで、市民会議の全員のコンセンサスもやろうとなっているわけですから、まずは、稲城市側の体制をまずきちんと作り上げることが重要だと思います。メンバーについては、この市民会議のメンバーになるのか、どういう形で選ばれるか分かりませんが、まずは組織を作りつつ、「我々は正式に決まってこういう形で進めると」と先方に伝えていけば良いと思います。そうすれば、例えば、向うには非常にパワフルで交流にも乗り気の教育長もいますから、話を詰めていくことができると思います。そのような流れになるのではないかと、私は感じました。

武藤部長：私どもが2年前に視察に行った時に、他市の姉妹都市提携をアテンドをした方のお話を伺ったのですが、アメリカの市と日本の市が姉妹都市を結ぶ場合は、だいたい、アメリカ側でも姉妹都市の協会、アソシエーションを立ち上げるということでした。これは完全な市民の団体となっていて、市民団体が中心となり、メンバーの寄付や募金で会を運営していくのが一般的ということです。行政はそれを認めてサポートするだけであって、その運営は、フォスターシティアソシエーションというものが中心で行っていくということを伺っています。ですので、それに基づいて、フォスターシティ市も今後動いていくと思っています。

委員長：他にいかがですか

< 質疑・意見なし >

委員 長：それではご質問も出尽くしたようです。前回の会議までに、候補地をフォスターシティ市に絞り込んできまして、最終的な決定については、現地視察での確認を経てからということでした。ただ今の報告を受けまして、市民会議としては、フォスターシティ市が海外姉妹都市の候補地として相応しい都市であるとの結論でよろしでしょうか。

< 『異議なし』のご発声多数 >

委員 長：それでは、ご異議なしといたします。

【議題2】提言について

委員 長：続きまして、議題2『提言について』、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：それでは、資料6『海外姉妹都市の提携について（提言）【案】』をご覧ください。

〔資料6『海外姉妹都市の提携について（提言）【案】』に基づき説明〕

委員 長：ただ今、事務局より説明がありました。提言案について、何かご質問のある方は挙手願います。

委員 員：提言案については、大変すばらしいまとめをしていると思いましたが、少し実際に議論した内容と違う部分があるのではないかという気がしました。1部を申し上げますと、2ページ目の中段あたりの「規模として人口が3万人程度であり、お互いを理解するためにも、交流相手としては適当な規模となっています。」というところですが、議論の中では、むしろ規模が小さ過ぎるのではないか、合わないのではないかという感じだったのです。もう少し10万人とか、そのくらいの中規模なものであれば良いのですが、3万人であれば、稲城で言うと向陽台、長峰、若葉台を合わせたくらいで、完全にニュータウンの部分だけです。

また、その続きになりますが、「水を活かしたまちづくりをしていることなど、稲城市との共通点も数多くあります。」というところですが、実は我々はグループを作って少し勉強会みたいなものを行っているのですが、稲城と少しレベル的に合わないところがあるのではないかと考えています。フォスターシティ市は非常にリッチな方々がたくさん住んでいて、シリコンバレーに勤める高収入者が多く、アメリカでも1、2位を争う高収入住宅地区なので、それと比べて、稲城は、それと釣り合うと言えるのだろうか、というのが疑問としてありまして、そういうのは、レポートにも私の方でまとめています。そういう点が、この部分で気になったところです。

それから、3ページの上の方ですが、「インターネットを利用した双方向で映像や会話のやり取りができる仕組みであるスカイプなどを利用した交流」が書いてあります。多分これは、今日のご報告を聞くと、隣のサンマテオ市と大阪の豊中市の交流の先例があって、ここがやっていることをやりたいという風に伺ったのですが、実際に、豊中市の前例のようなものを、これから良く勉強しなければいけないというのが1つ。もっと肝心なのは、

スカイプを使うにしても、英語で交流するわけです。そうすると、そういうことを学校で本当にできるのかということがあります。また、それができるようになるために、どのような準備が必要なのか。あまり簡単にできそうな感じではないという気がします。

その辺りも含め、少し提言全体がバラ色に見えるので、もう少し現実的な所も、問題点とは言いませんが、少し釣り合いが取れていない点もあるのではないかとということも含めて、提言書に反映した方が良いのではないかと気がしました。

柴田課長：スカイプのところは、サンマテオ・フォスターシティ市学区のロサス教育長とお話をさせていただいた中で、サンマテオ市と豊中市が実際にやっている話を伺っておりますので、今後、先例として豊中市には色々と情報交換をさせていただいて、参考にさせていただきたいと考えています。

委員：スカイプの交流は、実際にどういう言葉でどのように実施するのでしょうか。生徒は座って、先生が通訳に入るような感じでやるのでしょうか。

柴田課長：そう言った部分も、今後、豊中市に伺ってみたいと思います。

委員長：NTTの翻訳機でもかなりのことができます。うちの会社でも活用しており、中国語から韓国語まで自動翻訳をしています。

武藤部長：スカイプの交流では、子どもたちが片言でも良いので英語で話し、どのように表現をするのが良いのかを含めて皆で話し合っ、研究していくことが大切なのだと思います。また、全員で話すわけにはいきませんから、代表の子が喋っていくようになると思います。なお、学校では様々な英語教育がされていて、外国のネイティブの方に指導補助として来ていただいている日もありますから、そういうネイティブの方に一緒に参加していただく方法もありますし、様々な方法があると思います。

委員：私が発言した意図は、決してネガティブな意味ではなく、むしろ実際に進めるために色々やらなければいけないことが出てくると思いますので、それに取り組んでいく雰囲気を作っていくと効果が複合的になるのではないかとという意味でお話ししました。具体的には、英語による交流になると思いますので、そのための準備を進めた方が良いという気がします。

委員長：他にご意見ございますでしょうか。

委員：提言書については、文章はこれで良いと思うのですが、数十年前に国内の姉妹都市を検討し、女満別町の姉妹都市提携を提言した提言書において、海外姉妹都市についても「将来こういう風にすべきだ」という記述があった筈ですので、過去においても提言書に書かれていたり、長期計画の位置付けがあるというようなことも、今回の提言書に1、2行入れていただくと、流れが分かりやすいと思いました。

武藤部長：たしかに、女満別、今の大空町と姉妹都市を結ぶ時にも、このような市民会議で提言をまとめていただいておりますので、その中の「まとめ」の部分で、「将来的には海外との姉妹都市交流も有意義である」という風なご意見をご提言いただいておりますので、その部分を今回のこの提言の中にも反映させていただきたいと思います。

委員長：他にご意見如何でしょうか。

<質問・意見等なし>

委員長：意見も出尽くしたようです。いくつかご意見がございましたが、事務局、いかがでしょう

か。

武藤部長：ご意見もありましたので、また、まだ読み込みが足りない部分もあろうかと思しますので、「ここはこうした方が良い」というご意見がございましたら、事務局の方にご連絡をいただいで、それを最終的には、委員長とご相談をさせていただいて、提言書の形にまとめさせていただきますと考えています。

委員長：それではこの内容で、多少の修正は事務局と私に任せていただき、市民会議の提言としたいと思います。皆様よろしいでしょうか。

<異議なしのご発声多数>

委員長：それでは、異議なしといたします。

柴田課長：それでは、本日の議事内容の加筆や、先程いただきましたご意見を踏まえて事務局で修正をさせていただきますして、委員長の了解をいただいた上で、本日付の提言書として作成させていただきます。

委員：補足になりますが、フォスターシティ市にも商工会がありまして、会員数は300、会費が300ドル、対象は中小企業などといった区分けがないので、VISAのような大企業もメンバーに入っているということでした。向うの女性の商工会長と意見交換をした際に、稲城市の商工会の会員数を聞かれまして、約800と答えたのですが、そうしたら、「自分たちも是非そうになりたい」ということで興味を持たれていましたので、市民会議の委員長が商工会の会長だから、伝えておくとお話ししてきました。

今回の視察で知り合った、女性の商工会長や、女性の教育長、この2人が非常に交流に対して積極的でありましたので、この分野については、個々に話ができると思います。1つは商工会、1つは教育で、個々に話を進めれば、何か接点が出てきて、次に繋がっていくのではないかと少し思いました。

委員長：サンマテオの商工会は東京商工会議所の子どもの商工会です。東京商工会議所に行けば、アポイントメントも取ってもらえます。我々も仕事上、商工会としても非常に興味があるところです。

【議題3】その他について

委員長：それでは、続きまして、議題3『その他について』、事務局から説明をお願いします。

武藤部長：ここで、今回、提言をまとめていただいたということになりまして、非常に長い間かかった会議でございましたが、皆様には、本当に熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。提言書につきましては、今後、市長に提出いたしまして、これからは、フォスターシティ市との提携に向けて、進んでまいりたいと思っています。

また、来年度に向けましては、提言にありますように、具体的な組織作りなどについてのご議論をはじめ、色々な面でまたサポートをいただく必要があると存じます。今後とも、稲城市の発展、また、市民の国際化のために、ご協力をいただければと思います。どうも、本当にありがとうございました。

委員長：最後に何か連絡やご質問のある方はいらっしゃいますか。

<質問・意見等なし>

委員長：それでは、これで稲城市海外姉妹都市検討市民会議を終了といたします。

長い間、お疲れ様でした。